

京都教育大学FDニュース

No.89

2019年8月23日

京都教育大学FD委員会

本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、2018年度教育学部後期授業アンケート及び2019年度前期授業アンケート活用状況調査及び中間アンケート実施結果調査について報告いたします。

1. 2018年度教育学部後期授業アンケート

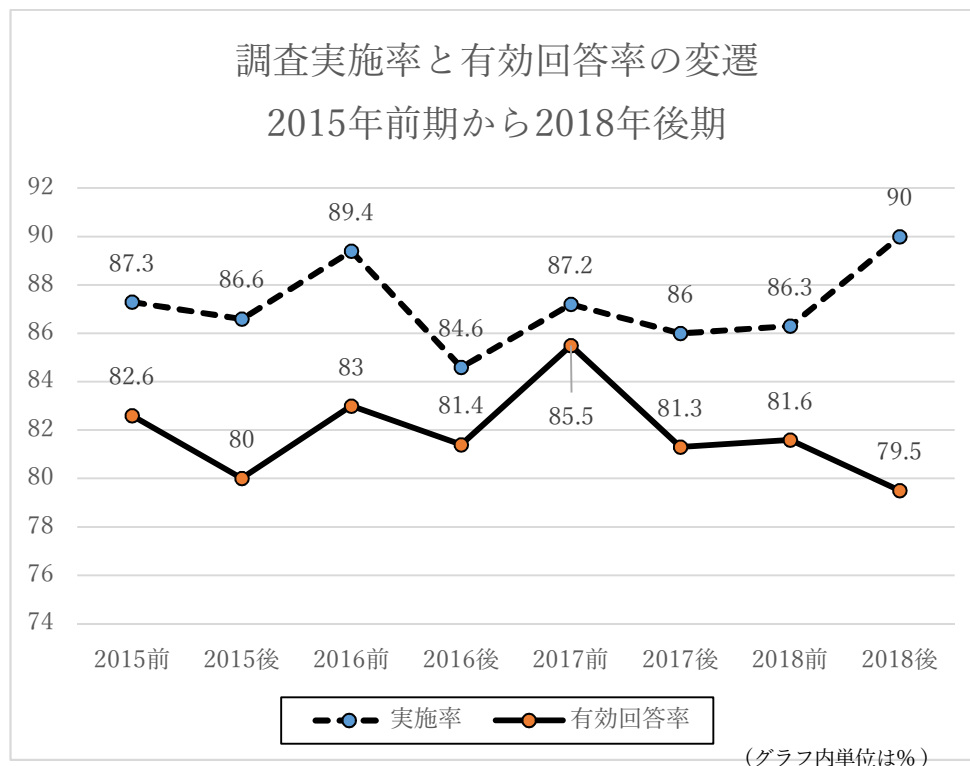
1. 調査の概要

実施期間：2019年1月7日（月）～2月1日（金）

対象科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：349, 実施科目数：314（未回収35 実施率90.0%）

実施科目のべ履修者数：13,047名, 有効回答数：10,366（有効回答率79.5%）



2018年後期では、前期より実施率が上がっているにもかかわらず、有効回答数が減っている。今回の実施では昨年度同時期比で履修者数が7.2%の増加だが、回収数は4.6%の増加にとどまっている。

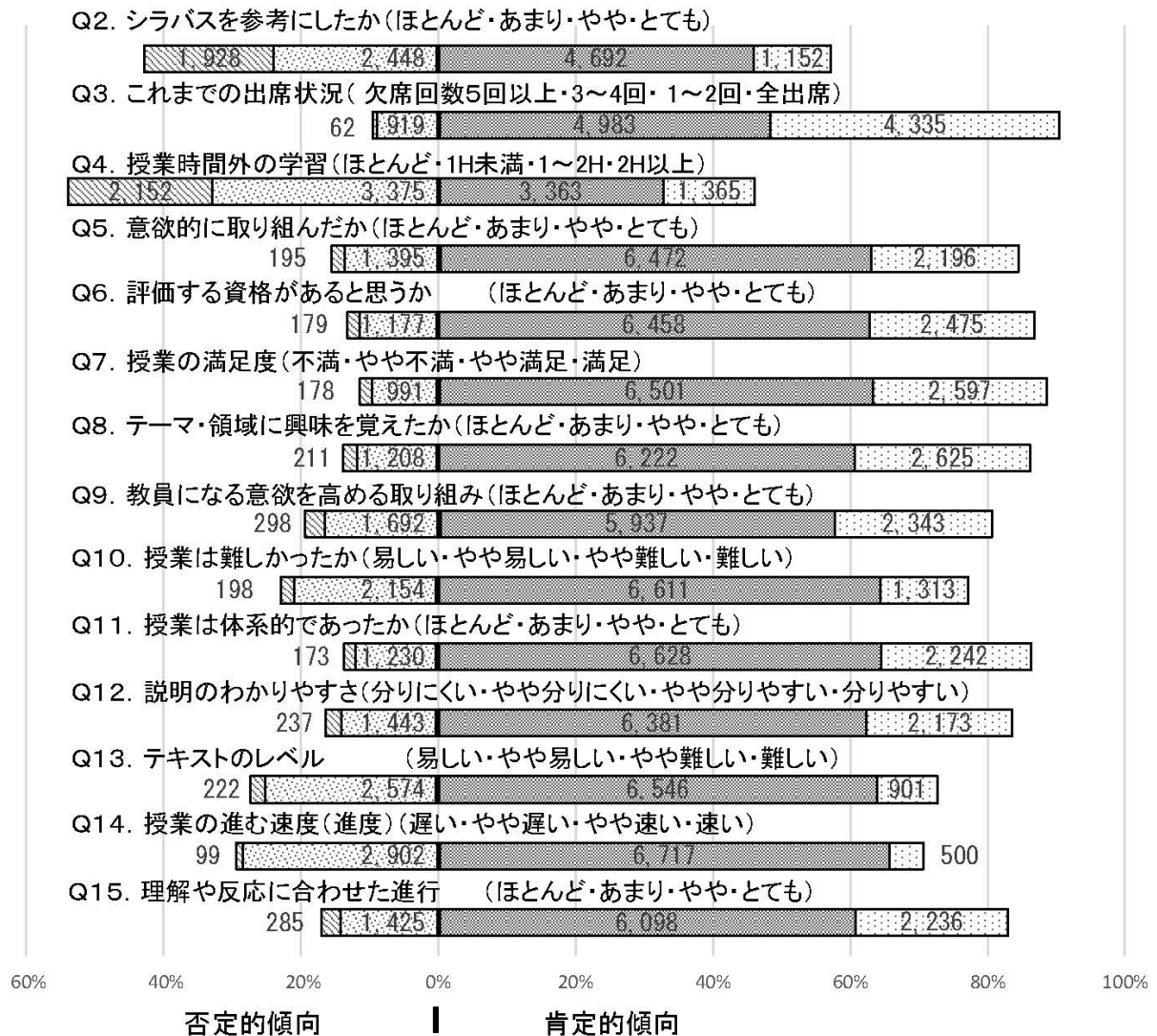
未回収35件のうち、20件が昨年度と同じ授業名であり、何らかの事情で実施できない授業が一定数存在することを示している。受講生数規模ごとの有効回答率については、6～20名で84.3%、21～60名で82.7%、61～100名で77.1%、101名以上で73.2%であった。この数字は規模の大きい授業でのアンケート実施の難しさを示しており、今回の有効回答率低下の一因と考えられる。

2. 結果の概要

(1) Q1. の「授業を選択した動機について」の回答は、「興味・関心」約 25%、「必修」約 64%、「人の薦め」約 4%、「空き時間だから」約 5%、「容易そう」2%であった。2年前同時期と比べると「必修」が約 5%増の一方、「興味・関心」が約 4%減、「空き時間」が 1%減となっている。複数回答ができる設問であるが、アンケート全体の有効回答数と本設問の回答総数の差が 4.6%とわずかだったので、ほとんどの学生は選択肢のうち 1つのみにチェックを入れたと考えても差し支えないといえる。よって、カリキュラム変更に伴う自然な変化であると解釈できる。

(2) Q2. ～Q15. についての結果を以下にグラフで示す。

Q2～Q15 全体回答の帯グラフ (有効回答数=10,366)



※無効回答は含まれておりません

回答全体としては概ね肯定的傾向にあると言える。2018年度前期から変更された質問項目「Q9. 教員になる意欲を高める取り組みが行われていたか」についても約 8割が肯定的な回答である。後期の授業アンケートにおいては初めての設問となるため、過去との比較はできないが、「教職」を意識した授業づくりが概ね行われていると考えることができる。

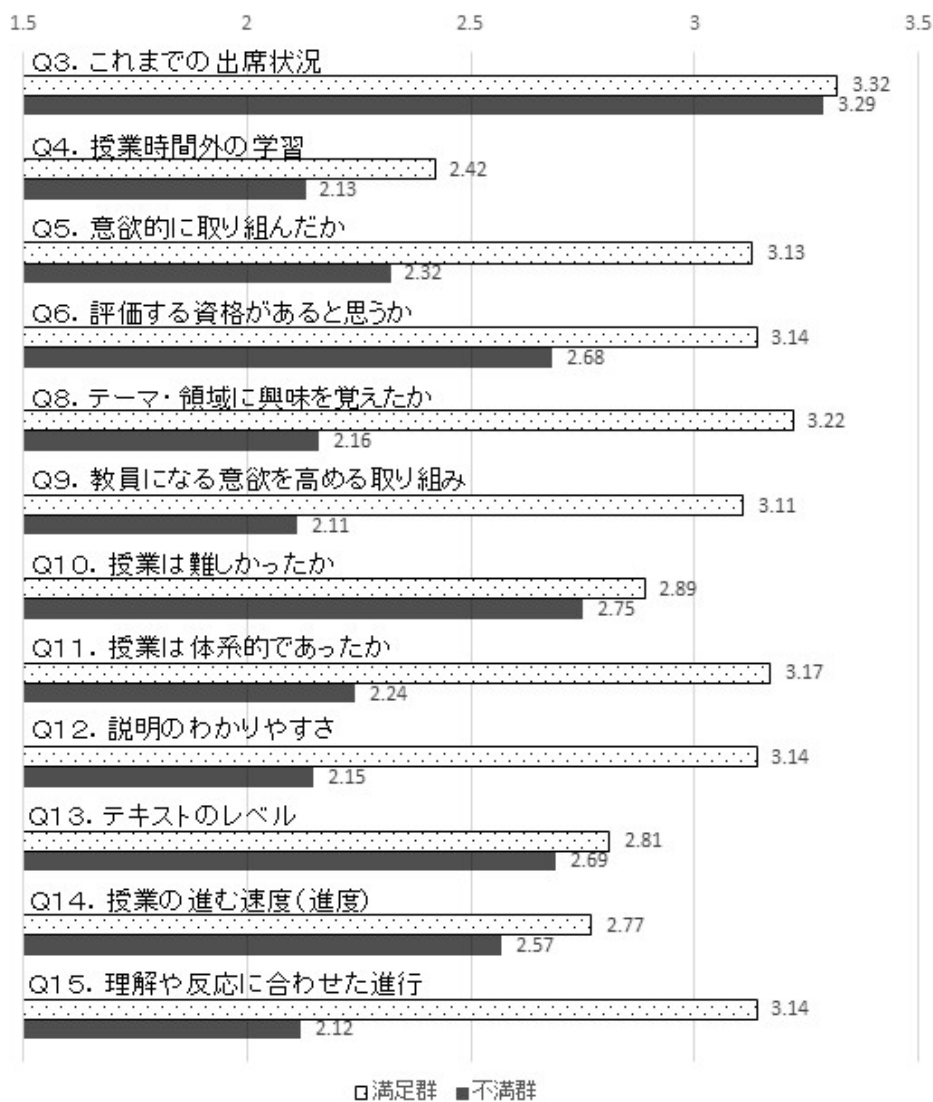
Q2、Q4については、大学全体で学習環境を整えることにより、肯定側へ結果を寄せていく必要がある。

Q12「授業のわかりやすさ」は、取り扱う内容によって評価が大きく左右される。しかし、「わかりやすく」子どもたちに説明できることを目標としているであろう受講生にとって、教育大学での授業はその手本となるべきであり、関連項目 Q5、7、12 についても更に肯定側を目指し続けるべきだといえる。

(3) 受講満足度グループ別の回答平均分布

2018 年度後期 Q7. 授業の満足度について、回答全体を「満足群」（「満足④」「やや満足③」）と「不満群」（「やや不満②」「不満①」）に分けたうえで、それぞれ他の項目とのクロス集計を行った結果を示す。

Q7満足度グループ別の回答平均値



このグラフから満足度と関係の深い項目、そうではない項目が見えてくる。「出席状況」「授業の難しさ」「テキストのレベル」「授業の進度」など授業の計画に関する部分は満足度に影響していない。

一方、「体系的かどうか」「説明のわかりやすさ」「理解や反応に合わせた進行」など授業法に関わる部分の評価は満足度への影響が強い。また「興味」に関する設問（「意欲的」「興味を覚えたか」「教員になる意欲」）も授業法に関わる部分との関係が強いと捉えられる。

学生の満足を得ることが授業の目的ではないが、主体的な学びの原動力となる「興味」は「満足」との関係が強いため、満足度を高める工夫は、学生の主体的な学びにつながるものと考えられる。

2. 2019 年度前期授業アンケート活用状況調査及び

中間アンケート実施結果調査

学期末に実施する「授業アンケート」は、実施の時期や集計に要する時間などから授業評価の意味合いが強くなります。一方、学期中頃に実施をお願いしている「授業中間アンケート」は、授業担当者がリアルタイムで学生の要望を把握するなど、授業改善の一助としていただくことを狙いとしております。アンケートの実施を「授業アンケート」と同じ6名以上の受講登録がある全授業をお願いしております。

2019 年度前期授業アンケート活用状況調査及び中間アンケート実施結果調査

回答期限：7月5日（金）

回答総数 79 枚（去年同期 76 枚）

I. 授業アンケート（期末実施分）の活用状況について

問1. 過去の授業アンケート結果を2019年度前期の教育学部の授業に反映させている。

はい 66 いいえ 4 無回答など 9

問2. 授業に反映させていない理由についてお聞かせください。

- ・反映させる内容が無いと思われる ・毎回、同じ結果だから
- ・自作アンケートを利用 ・2018年度以前は授業を担当していないため

【「回答なし」回答者の記述】

- ・毎回授業評価をさせておりその意見は反映させている

問3. 授業に反映された内容についてお聞かせください（複数回答可）

	回答数	反映した数(66)に対する比率
時間外の学習時間を見直した	12	18.2%
意欲的に取り組めるよう対応した	15	22.7%
テーマ・領域を見直した	6	9.1%
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	11	16.7%
難易度を見直した	24	36.4%
体系的でまとまった授業を心掛けた	11	16.7%
授業の説明をわかりやすくした	21	31.8%
テキスト（配布資料など）のレベルを見直した	15	22.7%
速度（進度）を見直した	24	36.4%
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	18	27.3%
その他	6	9.1%

【その他の回答】

- ・視聴覚教材を増やした ・受講者が考え、まとめる時間を増した ・パソコンを使った演習を多くした
- ・学習の仕方の明示的説明を加えた ・教材、教具の見直し
- ・配布資料の文字がわかりやすい様にフォントや文字の大きさを変えた

〈コメント〉授業アンケートへのご協力をありがとうございます。反映された内容では「授業をわかりやすくする」など学生の満足度や興味につながる項目への回答が多くなっています。その他にある具体的な内容も含め、学生にとっての魅力ある授業づくりを目指していることが読み取れます。授業を工夫する先生の態度や姿は、教員を目指す学生にとっての模範となるでし

よう。アンケートをどのように活用するかは担当授業内容で異なると思いますが、より良い学生を育てるという目的の一助となれば幸いです。

Ⅱ. 2019年度前期教育学部 授業中間アンケートの実施結果調査について

問1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した。

はい 60 いいえ 18 回答なし 1

問2. 授業中間アンケートをしなかった主な理由についてお聞かせください。

- ・対象者が少数（5人以下）であったため ・受講者が少数であるため
- ・教育実習で欠席する学生が多かったため
- ・学期末のもので十分わかるため ・毎回、授業後小レポートで、意見など集約しているため
- ・毎回の学生の感想文をふまえて、次回の授業レジュメを作成しており、学生とのやりとりができているととらえているため。
- ・毎授業の終了時に実施するミニレポートに授業への意見や感想も含めたコメントを書くよう指示しているため
- ・毎回の授業後のふりかえりにいくつかの項目できいておりそれで代替している
- ・授業中配布している課題プリントで授業内容へのリクエストを確認したことがあった為
- ・時間がない ・時間がなかった
- ・時間内に行うのが中間とラストの2回になるのは進行の関係で難しいためです。
- ・個人のレベルにあわせた教材と指導をおこなっているため中間にとることはおこなわなかった
- ・今年始めてこの授業を担当させて頂いているからです。
- ・特になし

問3. 使用した様式について、お聞かせください。（中間アンケート実施者のみ）

F D委員会の様式 50 独自の様式 9 回答なし 1

【「独自の様式で実施した」回答者の記述】

- ・毎回、講義の要約や感想を書かせている。レポートの最後に講義についての感想や意見を書いてもらっている。
- ・中間ふりかえりのプリントに自由記述式で実施

問4. 中間アンケートを実施した結果について、お聞かせください。（中間アンケート実施者のみ）

意義があった 31 どちらかという意義があった 23
どちらかという意義がなかった 3 意義がなかった 1 回答なし 2

問5. 授業中間アンケートの結果について、受講生と話し合ったり、言及したりされましたか。

（中間アンケート実施者のみ）

はい 38 いいえ 21 回答なし 1

〈コメント〉アンケートに協力をした学生は、その結果を知る権利を持っていると思います。活動に対する結果を示すことは、実施者（教員・大学）の責任であるため、ぜひ学生へのフィードバックをお願いいたします。現在、期末に行なっている授業アンケートについては、より開かれた結果の開示方法についての検討を重ねております。

問6. 授業へ中間アンケート結果を反映された内容について、お聞かせください（複数回答可）。

	回答数	実施数(60)に対する比率
時間外の学習時間を見直した	4	6.7%
意欲的に取り組めるよう対応した	11	18.3%
テーマ・領域を見直した	3	5.0%
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	6	10.0%

難易度を見直した	12	20.0%
体系的でまとまった授業を心掛けた	4	6.7%
授業の説明をわかりやすくした	19	31.7%
テキスト（配布資料など）のレベルを見直した	5	8.3%
速度（進度）を見直した	20	33.3%
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	15	25.0%
その他	11	18.3%

【その他の回答・FD委員会様式使用】

- ・スライドを資料として配布した ・指導力向上に向けて有意義になるようとの配慮と教員採用試験対応を深めた
- ・授業内容の定着に向けての教材の作成 ・ゆっくり話すように心がけた ・リフレクションの密度を高める
- ・意欲的に取り組んでいることが確認できた ・グループワークの方法など見直した
- ・今までの授業の概要を、再度プリントにまとめて配布、説明した
- ・リフレクションのまとめに費やす時間を短縮した
- ・特にこのままで良いとの回答であった ・反映させていない

【その他の回答・独自様式使用】

- ・学生とのコミュニケーションペーパー的に扱っている。質問事項なども記入してよいこととしているので、それへの回答を次時に実施することもある。
- ・具体的なイメージを喚起するため、映像教材を追加した

問7. FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問について、お聞かせください。

- ・選択肢の良悪と選択肢の番号が同じ対応になる設問を隣接させてほしい。集計結果がやや読みにくい。
- ・自らの学習意欲、研究的姿勢を振り返らせる項目・設問も必要では。
- ・自分にとって実りのある授業であったかどうか、理由も含めて書けるとよいと思います。
- ・選択式アンケートは、やる価値はない。自由記述のみがよいと思う
- ・出席回数を書かせて欲しい。(実施日までの)
- ・①FDで実施するアンケートは無意味！！その理由無記名 ②問が教科にあっていない ③人気投票になっている

〈コメント〉現在、教務課の様式集において、授業中間アンケートの回答用紙原本データをPDF、word、一太郎の形式で配布しております。皆様からのご意見の通り、アンケートの質問項目は、必ずしも全ての授業に適しているわけではありません。そこで、ぜひ各授業に適した形に調整していただき、ご活用ください。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田（委員長）、小松崎（副委員長）、東村、藤岡、山口
（事務担当：河原田、山本、村田）